

第 5 回世田谷区本庁舎等整備基本構想検討委員会での主な意見

配置と形状について

真ん中の道路については、敷地内通路として敷地に算入すべき。

少しでも活用しながら、カーボンもなるべく出さないようにしていくべき。

ル・コルビュジェの愛弟子である前川建築を壊そうとしているのだと知った。これは区だけで決定していいものなのか。このままでは 20 世紀の代表的な建築物を壊すという委員会になってしまうため、非常に重い責任がある。

コルビュジェの建築が世界遺産に内定したとの新聞記事があった。その弟子の前川氏の区民会館、第 1 庁舎は何らかの形で残しておくべき。

60 年経過している建物を維持していくのはランニングコストがかかる。区民の多くがそこまでして残したいと考えるのか。国立競技場のように二転、三転するのは避けるべき。残すといっても、そのまま残す方法や、デザインを残すなど、色々ある。コスト面をもう少し考えていかなければいけない。

城山分庁舎の跡に、教育委員会くらいなら入れるのではないかと。本庁舎とは別にあってもよいのではないかと。なるべく本庁舎の面積は減らしていくべき。

今の建物を改修して、設備も更新すれば、建て直すより間違いなく安くなる。

中庭の地下の整備を先行して行い、そこに災害対策本部を動かして、地上部を自由に使っていけば、工期やコストも劇的に改善されるのではないかと。

古い建物なので、アスベストを使っている可能性が高く、その処理にはお金がかかる。

コンクリート打ちっぱなしの建物なんだから、アスベストは使っていないはず。

コンクリートの中性化などの基本データがない中で議論をしなければならない。

投資と効果がポイント。いくらかけて、それでどのような効果があるのか。全面解体して、効率的にすべき、民間ベースであれば、間違いなくそうする。

コルビュジェも前川も、建物の機能を重視していた方である。50 年前は機能的なものだったと思うが、今は違う。新しく機能的なものをつくるべき。文化的価値を求めるなら、資料室をつくるなどすればよい。

9,700 m²の面積不足で 53,000 m²に届いていないが、工夫すればよい。前川さんの建物を壊す案だけになるのは疑問である。同じ到達点までいくように整理すべき。

50 年、60 年培われてきた世田谷らしい自治と交流の拠点を設計者に伝えていく責務がある。

ビッグベンは 200 年くらいもっている。この庁舎は 50 年程度で壊そうとしている。この差はなんなのか。

文化的価値を否定するわけではないが、区役所であるため、区民サービスや災害対策など、十分な機能を発揮できるのかという視点を入れて議論すべきである。

残していけるものは、価値があるのであれば残したほうがよい。コストも安く、サービスの低下につながらないように。

寿命と工期の関係で、何年使用を見込むかは分からないが、かなりの部分を工事しているという状況であり、工期は短縮していきたい。

一度壊してしまったら、元に戻すことはできないということを思い、検討を進めてほしい。

事業計画について

P F I が普及しないのは、公共が消極的だからである。P F I にすれば、賃料の負担が毎年あり、本庁舎にいくらかかっているのかが見える点もよい。

コンペが一番よい。まず基本設計者をコンペで選び、区民を入れて進めていく。その後、実施設計者をコンペで選ぶ、2段階で実施すべき。

施工は入札がフェアである。地元業者を入れていく工夫が必要。第1庁舎と区民会館の改修ならば、地元業者でもできるのではないか。

アイデアコンペと設計コンペがあるのだと思う。選定に要する経費やスケジュールなどを考慮して、選択していくべき。

施工計画や引越し手順など、設計を出す側は相当な労力をかけないと提案できない。

プロポーザルもコンペもあまり差はないと思う。区民参加を条件にして、コンペかプロポーザルを実施すべき。

建築系に限らず、広場などのランドスケープデザインなども重要だと考える。そういった能力を持つ事業者としたり、そういう事業者と連携できる事業者とするなど、条件を考えるべき。

P F I など、みんな推測で話している。具体的な数字を出していただかないと、分からない。一般区民（素人）でも議論できるような資料にすべきであり、それができないのであれば、専門家に任せたほうがよい。

起債をすれば、当然利子がつく。410億円というのは、本当の事業費ではないのではないか。

今回示された事業費は、コスト的には妥当ではないか。ただし、備品などが含まれていない。それ以外に何がプラスされていくのか、しっかりと説明していくべきである。

区が保有している土地の売却などにより、少しでも庁舎整備に充てることなどが必要ではないか。

居ながら工事という非常に難解なパズルを解く必要があり、保存まで考えるともっと難しい。最終形だけでなく、プロセス自体も設計と考え、建替えのプロセスを大事にしてくれる業者を選ぶ必要がある。

検討にあたって

規模をどうやったら確保できるかを検討するのではないのか。ゼロベースという話だったのに、区から制限が後からいろいろ出てきて、ゼロベースではなくなっているのではないか。

区から示されたものに対して、意見を出すのが検討委員会の役割ではないか。

検討素材のまま、次の段階（設計者選定）に進んでも、良い建物はできないと思う。委員や区民の想いを書き込んでいきたい。

報告会について

この検討委員会もそうだが、年配の方が多い、ツイッターなどでも周知するようだが、若い人を集客できるような周知をしていただきたい。